

## 令和2年度第3回辰野町総合教育会議議事録

### 【日時】

令和3年2月26日（金）

開会 午後16時00分

閉会 午後17時05分

### 【会場】

辰野町役場第6会議室

### 【出席者】

11名

#### （辰野町関係者）

辰野町長 武居 保男

辰野町副町長 山田 勝己

#### （辰野町教育委員会）

教育長 宮澤 和徳

教育長代理 根橋 久人

教育委員 垣内 由佳

教育委員 関 政彦

教育委員 萩原 多恵子

#### （事務局関係）

総務課長 加藤 恒男

生涯学習課長 西原 功

総務課課長補佐

兼秘書室長 三浦 秀治

こども課課長補佐

兼学校教育係長 桑原 さゆり

学校教育係 向山 倅生

### 【傍聴者】

42名

## 1. 開会のことば

＜加藤総務課長＞

皆さん、こんにちは。

私、総務課長の加藤と申しますけれど、次第に沿って進めさせていただきたいと思  
います。本日は、ご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまより、令和2年度第3回辰野町総合教育会議を始めまいります。

## 2. 町長あいさつ

＜武居町長＞

皆さん、こんにちは。

本日、第3回辰野町総合教育会議を招集いたしましたところ、教育委員の皆様にお  
かれましては、ご多用のところ、ご出席いただき感謝申し上げます。

さて、前回の総合教育会議では、皆様に事前のご相談もできず、唐突な形で一方的  
な私案の発表となり、多くの皆様に不安と混乱を与えてしまったことを深くお詫びい  
たします。

私案の発表後、教育委員の皆様と意見交換をさせていただき、さらに多くの方から  
さまざまなご意見をいただきましたが、私としても、前回説明不足であったと感じて  
いる点や、その後に思い直した点、反省点がありましたので、本日の会議を設定させ  
ていただきました。

はじめに、川島小学校存廃問題に関するこの3年間をふりかえっての思いをお伝え  
し、私案についても、補足と現在の考えを説明させていただきたいと思います。

課題や見落としの多い私案であったろうと思っておりますので、皆様の忌憚のないご意見  
をお聞かせいただければ幸いです。

どうぞ、よろしくお願い致します。

## 3. 教育長あいさつ

＜宮澤教育長＞

皆さん、こんにちは。

大変お忙しい中、教育委員の皆さん、それから多くの傍聴の皆さんにお出でいた  
だきました。大変ありがとうございます。

今年度、第3回目の総合教育会議でございます。ちょうど1ヶ月前の1月25日の  
総合教育会議において、町長の方から突然私案が出されて、教育委員会としましても  
内容を追うのが精一杯で、総合教育会議で特に大事にしなければならない、職務権限  
がそれぞれ異なる教育委員会と町長とが意見交換、協議を行うという部分が、全くで  
きなかつたわけでございます。

学校現場や保護者などからは、心配や不安の声を多くいただくようになりました。  
教育委員会にもたくさんの声が届いております。教育委員の皆さんの方にも、様々な  
意見が寄せられていることとお聞きしております。

そこで、今日は改めて町長から説明いただき、教育委員の皆さんからご意見を頂戴  
できればと思っておりますので、よろしく申し上げます。

今日は、お世話になります。

## 4. 協議および意見交換

(1) 川島小学校存廃問題の3年間をふりかえって【資料 No.1】

・武居町長より別紙【資料 No.1】を朗読。

<宮澤教育長>

まず最初に、今も、あり方検討委員会が出した提言、教育委員会の見解は異論を挟まない、尊重するというを示していただいたこと、それは感謝したいと思います。

それで、川島小のあり方については、今日ここでは言及せずに4月をめどに、というような話がありましたので、3年間待ちましたけれど、もう2ヶ月程は待ってみようかなと思ってございます。

ぜひお願いしたいことは、前回の1月25日の総合教育会議の時のように、突然発表するのではなくて、職務権限がそれぞれ異なっている町長部局と教育委員会であり、それぞれしっかり区分けされておりますので、事前に十分な協議ができるように希望したいと思います。

その中で、もしかすると、教育委員会の立場と町長の立場で異なった方向が出てくるかと思えますけれど、そのようになった場合もまた協議をさせていただくようなことで、いずれにしましても、丁寧な協議を重ねていきたいと思えますので、職務権限がこうなっているから、こうですよ、というような冷たい切り方ではなくて、町長側と教育委員会側でしっかり協議していくことを希望したいと思います。お願いします。

<武居町長>

ただいまの教育長のご発言、本当にごもっともなことだと思います。

表明して1ヶ月経つわけではありますが、表明すること自体がギリギリまでかかってしまった点等ありましたけれど、教育委員会、教育委員の皆様との相談もせずに、唐突に発表したことに対して、本当に改めてお詫び申し上げたいと思っております。

ただいまの話の中で、このことについて、発表以来、教育委員の皆様との懇談等が続いてまいりました。また、私の方にも100件近くに及ぶ、賛成の方、あるいは反対の方のご意見が寄せられておまして、一つ一つ、謙虚に耳を傾ける中で、私自身足りなかった点、私自身が知らなかった点が多くありましたので、この1ヶ月については、かなり私自身の心情の変化等もございます。

もうしばらく、本当に申し訳ないですが、整理したいこともございますので、お時間いただいて、できれば4月中には、また改めて再度、考えを表明させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

<根橋教育委員>

今の発表に関して、4月に今後の考え方を述べられるというようなお話がありました。今において、川島小の子どもたちの数が何人になったら、どのようになるのかということも示していただきたいと思えますし、児童数が0になるまでこのままいくのか、このことに関しましてもどのようなお考えなのか、どこかで判断、決断をしていかないと、来年度は児童が9名になってしまいますので、どのように考えているのかお示しいただければと思います。

<武居町長>

先ほど、私がお話したとおり、児童数については微増ではあるが、ほぼ横ばいでありまして、それから今後の児童数の大きな増加も見込めないという状況であることは、先ほどお話したとおりでございます。

今となっては反省しなければいけないことですが、教育現場、教育のことと移住定住政策が絡んでしまっていて、分けて評価をしなければいけない、そういったことも感じた次第であります。

ただいまの根橋委員さんのお話の中で、基準となる数値的なこともありました。そ

れも含めて、4月の段階で発表させていただきたいと思います。ご容赦ください。

#### <関教育委員>

3年間を振り返ってということで、今町長さんの方からいろいろご説明がございました。3年前に立ち返りますと、平成30年3月26日の総合教育会議において、町長はこうおっしゃっております。3年間は徹底的にやる方向で、いろいろな政策を立ててやっていきたい。もしその段階で増える傾向が見えない時には諦めざるを得ないとおっしゃっております。先日の1月25日の総合教育会議において、キャンパス化構想の中で、川島小存続というようなことを表明されたと記憶しております。今日の総合教育会議でご発言された、遅くとも4月にはお示しをいただけるということでありませうけれど、それについては明確に存続、または統合というようなものが示されるという、私どもの理解でよろしいでしょうか。

#### <武居町長>

3年前のことを振り返って、ただいまご発言がございました。ここも私自身の反省点でございますが、今回の表明の仕方も、川島小の存廃問題とキャンパス化構想とが、ある程度一体化したものになってしまって、ほとんどの方が着地点、結論が見えにくかったということで、本当におっしゃるとおりであります。

私の方から言うのも変な感じですが、自分自身の反省です。AかBか答えなければいけないのに、Cという回答を出してしまった。自分自身の根底には、一連のものとして考えるという思いがあったのですが、やはりある程度、それぞれ分けて、それぞれの考えを明確に表明すべきだったと反省しております。

様々なご意見をいただいておりますので、本当に整理して、ある程度の、またさらに方向性を持った形での表明とさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

#### <萩原教育委員>

川島小学校のことを考えるにあたって、いろいろな団体などで考えていらっしやると、いろいろな資料を見るとありまして、今回の資料にも、いろいろな会議の名前が出てきているのですけれど、この会議がどういった人たちで構成されていて、しっかりみんなの意見が汲み上げられるような会議の中で話し合われていたのか、そういった点をお聞きしたいです。

あと、川島小学校への皆さんの思いが強い、と書いてあるのですけれど、みんなというのは誰を示しているのか、何か根拠があって、皆さんの意見ということでおっしゃっているのか。私の耳に入ってくる話ですと、各耕地の皆さんごとに、川島小学校のことについて話し合いが持たれているということをお伺いしていますし、皆さんそれぞれの意見がおありで、学校についてどのようにするか、という結論が何度か出されているというお話も聞いていますので、そういったことも町長さんの耳にも届いているのか、少し疑問に思っております。このことについても教えてください。

最後に、なるべく早い時期に、4月にはお示しいただけるということですが、なぜ4月なのかということが分からないですし、3年間あって前回の会議を迎えていますので、3年間あってなおかつ4月までということは、私にとっては、また延びたのかという印象がありますので、なぜ4月なのかということと、整理をしてとありますが、どのように整理をするのか、前のキャンパス化構想みたいに、一人の考えの中で整理をされて結論を示されるのか、どなたかと協議を重ねて整理をされるのか、この前のような形であるとするならば、私はちょっと不安が残るので、その点についても何か

お考えがあるのか教えてください。

<武居町長>

まず最初に、川島小には本当にいろいろな自治的な団体がございます。冒頭、私の方からもお話をさせていただいたとおり、川島小学校の将来を考える連絡会議、こちらの会議の構成ですけれど、そもそも3年前、存続を前提に、関係する行政ももちろんですけれど、区内にあります耕地の皆さん、区長さん、区の皆さん、あるいは学校関係のPTAの皆さん、いろいろな地区内で将来を考えていらっしゃる皆さんの代表者、総勢30名くらいの会議でございます。会議の性格ですけれど、誰がトップで、その人の下でいろいろなものが決まって行動に移していくという性質の会議ではございません。連絡会議という名前が付いているとおり、それぞれの団体が動いていますので、それぞれの団体の活動、その企画自体、会議で決めたことをやらなければいけないということではなくて、それぞれ目的の持った団体の集まりですので、それぞれの団体が行っている活動報告、また今後やろうとしている事業計画みたいなものを、この連絡会議の場で話をしてもらって、お互い共通認識の下で動いていこうという性格のものであります。そのような内容のものでご理解いただければと思います。

あと、思いの強い方のお話ということで、耳を傾けるような機会が多かったと思いますけれど、当然川島という土地を愛し、自慢し、誇りを持っていらっしゃる皆さんもいます。ただ、子どもの教育に関しては、どうしても全校児童数が少ないということで、将来を思うと、やはり児童数の多い学校に行かせたいというご家庭もございます。ただ、その両方の皆さんのお気持ち、あるいはお金を引き合いに出しますと、非常に私としましては、どっちもどっちですし、一つにまとめることの難しさを感じておりました。町の行っている通学バス、川島地区における通学バスについても、政策上の矛盾点を自ら生み出してしまっていて、どうすればよいものか、自分自身が苦しんできました。そういったところで、問題点と川島の中でもいろいろなご意見があることも承知の上で取り組ませていただいた3年間でございました。

なぜ4月なのか、というご発言がありましたけれど、今日も、大勢町会議員の皆さんもご出席でございます。3月は定例会、また一般質問もございます。議員の皆様から見た、今回の問題に関して、私自身もまた謙虚にご質問を聞いて、私自身の考えをその場で確認していきたいという時間で、3月もそれでほとんどになってしまうと思います。

先ほど言いましたとおり、整理すると言いましたけれど、今度は整理した資料を皆さんにお配りするのではなくて、私自身の考えをまとめるための手段と言いますか、作業行程の一つだにご理解していただきたいと思います。本当に大勢の皆さんのご意見、私が見落としていた点もたくさんありましたので、もう1回一つ一つ抽出して、どれが自分にとって良いものか、優先順位を考えながら、判断材料の一つとしてやっていきたいと思います。その作業のために、どうしても1ヶ月くらいかかるかなと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

また、一人でやるのかという点ですが、申し訳ないですが、私に対して進言してくださる方、また手紙をくださった方、電話等で言われた方、個人的なお付き合いの中でもいろいろなご意見をいただいておりますので、これについては人に話すというものではないと思っておりますので、私の意見を固めるために、個人的な作業としてご理解いただければと思います。

## (2) 町長私案について【資料 No.2】

- ・武居町長より別紙【資料 No.2】を朗読。

<宮澤教育長>

まず、1月25日に発表された町長私案でありますけれど、言葉が強烈で一人歩きしてしまっております。イメージが先行してしまっているところが、保護者や町民の多くが混乱をしているところであろうと思います。

実は、学校現場も同じでありまして、先生方や学校現場も大分混乱している部分がございます。ちょうど1月から2月という期間は、先生方の人事異動の時期と重なっているわけです。辰野町の小中学校も合わせて、この人事異動が行われるわけですが、その中で、ちょっと辰野町では、というような先生方が何人か出てきてしまっていて、どうすれば良いかと校長先生からの相談がいくつかございました。そう心配をせずに、町内の小中学校の教育環境を教育委員会がしっかり守りますからということで、とにかく辰野町へ来てくださいとお願ひしたことがあるわけです。なかなか声には出てこないのですけれど、現場の先生方もかなり混乱しています。

町長のこの私案の中で、町民、子どもに選ばれる学校を目指す、ここが私案だと伺っておりますけれど、逆にこれは、先生方に敬遠される町になってしまう懸念も、一方ではあったのではないかと、そんな気がしているところでございます。

前回の総合教育会議の時に、突然でしたので、私の方で、財政面で非常に厳しいというお話をさせていただいたわけですので、同じ話は今日はしません。財政面のことは前回、お話させていただきましたので、子どもの学びと言った時に、これもおそらく一人歩きしているのだらうと思いますけれど、入学時にキャンパスの選択ができる、それぞれの特色が、音楽だとか美術等にあるという話なのですが、小学生、あるいは中学生もそうだと思うのですが、まだ小さいうちは得意とか不得意だとかがなかなか分からない、そんな時期だらうと思います。基礎的なものは全部一通り学んでいく中で、自分自身、何が秀でているのか、自分が得意としているものは何があるのか等々、見つけ出していくのだらうと思います。ですから、小学校入学の段階でキャンパスを自分で決めてしまうということは、ひょっとすると、嫌いなものや苦手なものはあまりやらない、得意なものだけをやっていくというような子どもが出てしまって、これは子どもの成長にとってはまずいだらうと思います。義務教育のうちは、一通り全ての教科や分野について学ぶということが大事なのだらう、そうした中で自分自身の個性を見つけて、中学あるいは高校で花を開いていく、それぞれ目標に向かって進んでいく、そのようになるのだらうと思います。

<武居町長>

ただいまのお話の中で、選べる学校という一つのテーマをいただいたわけですが、私自身が本当に説明不足であった、至らなかつた点は、何でもかんでも選ばなければいけないという捉え方をされた方にとっては、学校が近いのに遠い学校を選ばなければいけないという点です。もっと言いますと、学区がありますので、近いところにある学校に歩いていく。自分自身も昔経験した、近所の子どもの集団登校がありましたけれど、近所のお兄さん、お姉さんと一緒に登校する、また帰りは友達と帰ってくる、その間には道草をする。自分自身が落としていた点ですが、道草も学習の一つであると思ひ知った経験でございます。

また、財政面でもご指摘があつたとおりであります。本当に私自身が知らなかつた点が多かつたわけですので、またいろいろな部分を教えていただきたいという思ひであります。ありがとうございました。

<根橋教育委員>

先般頂いた私案につきましては、24 ページにわたる大変膨大な資料で、理解するには大変難しかったという感じを持っているのですが、なぜこの時期に、何のためにこのキャンパス化構想を進めていかなければならないのかと疑問に思いました。

もう1点は、川島小学校の存廃問題再考というタイトルで私案が出されているわけですが、キャンパス化構想は川島小学校のためにつくられたものだ、という意見が多数出ている、この点についてどのようなお考えになられるのかをお聞きしたいです。

あと、川島小学校が抱えている課題、問題点と町長さんが目指すキャンパス化構想の考えは、やはり切り離して示していかなければいけないのではないかと、そんな気がしています。

この3点をお聞きしたいと思います。

#### <武居町長>

本当に根橋委員さんがおっしゃる通りであります。

川島小の存廃問題と今回のキャンパス化構想については、分けて論ずるべきだったと反省しております。とにかく一緒になってしまったので、AかBかと問われて、Cと答えてしまった。余計分からなくなり、混乱を招いてしまったと反省がございませう。

もう一度冷静に、川島小の存廃問題は存廃問題として考えて、こちらについては、また整理をしなければいけない部分もあります。

キャンパス化についても、先ほど言いましたように、もう3年前には私の頭の中に、町の新生が当時でも100名を切る、今後も80名、70名と減っていってしまう、35人学級、30人学級としたら町全体で1クラスか2クラスの規模になってしまうというものがありました。その中で、やはり私の頭の中には、町全体の教育体制を考えていかなければいけないという思いがあったのも事実であります。全てが一緒になってしまったので、皆さんにとっては分かりづらい発表となってしまったと、反省しているところでございませう。

なぜ今のこの時期なのかということですが、3年前の総合教育会議から、厳密に言えばまだ数ヶ月あるような気もしていますけれど、今日の午前中に令和3年度予算のプレス発表をさせていただきましたけれど、考え方によっては、予算措置を講じなければいけない状況も出てくるだろうと。ただ少なくとも、私が示した中では、令和3年度は検討させていただきたい期間として捉えていましたので、金銭的な部分はあまり考えなくても良いかなと考えておりました。

また、やはり4月、5月には年度が変わってしまうので、年度内であるこの時期しかない、ましてや3月には議会の定例会があり、議員の皆様も非常に関心をお持ちですので、また議員の皆様のお考えやご意見をいただきたいという思いがありましたので、この時期にさせていただきました。

#### <垣内教育委員>

町長さんの示していただいた私案のキャンパス化構想の中で、入学時にキャンパスの選択をするとあるのですが、保育園、幼稚園を出た子どもたちがすぐに決められるものではないので、やはり親が決めるということになって、自分の家から通えるところという選択肢になってしまうのかなと感じました。

また、その下に、キャンパスの移動もできるとあるのですが、嫌だからこっちにするとか、どうしても子どもたちの中で、そのような子が出てきてしまうということがあると思うのですが、小学校、中学校のうちから、嫌だからこっちに通うということは、大人になっても、この仕事は嫌だから辞めるみたいな、あまり良い影響を与

えないのではないかと感じました。

お示しいただいた中には、教育委員会の中でも話が出ているプールですとか、それぞれの学校の給食室ですとか、早急に直さなければいけないところがたくさんあるので、その点は町長さんと教育委員会で話ができるところからお互いにしっかり詰めていければと思います。

とりあえず、この案は撤回を検討していただきたいと思います。

#### <武居町長>

まず、最後に言われた、撤回をお願いしたいということでございますが、先ほど言いましたとおり、もう少し時間をいただきまして、私自身の考えをまとめさせていただきたいということが本音でございます。

あと、いろいろ賛否があるのでしょうかけれど、今の嬉しいお言葉の中のように、非常に今、町が財政上困っていることは、各学校の維持管理の問題です。教育にお金をかけること自体をあまり言うてはいけないという方もいらっしゃいますけれど、実際のところ、非常に厳しい中でやりくりをしているのが現状であります。特にプールに関しては、年間7月、8月くらいしか稼動しないのに、何千万という大きなお金で、各学校で工事がされています。象徴的なのが、昔、荒神山にあったウォーターパークも、一時、町外からも大勢の方に利用されて、賑やかさを保ったのですが、年間を通じての稼動ができない等、いろいろな弱点が露呈してしまって、閉じることになりました。

このプールの問題、あるいは給食室の環境整備についても、本当にお金のかかる問題でございます。給食センター等の問題については、以前から大問題になりましたので、そこまで私は踏み込みませんが、各学校で本当にお金がかかっていることについて、何とか工夫してやれるものがないか、それについても、できれば教育委員の皆様と一緒に知恵を出して考えさせていただければ、ありがたく思います。

#### <関教育委員>

ただいま、町長さんの私案についてということで、お話をいただきました。

第一に申し上げたいことは、1ヶ月の間に、よくこれだけのものをまとめられたなと感心いたしました。キャンパス化構想が出た時には、本当にどうなることかと、個人的に思いまして、本当にどうなることになってしまっている状態が、現在であります。不安に思われたりとか、教育長の方からお話がありましたように、先生たちや学校の方にもいろいろな影響が波及をして、あまり表面上には出てきていませんけれど、これから保育園、幼稚園から小学校へ入学を迎えるご家庭ですとか、今、実際に児童、生徒さんを抱えているご家庭の中では、相当すごいことになっております。本当にすごい影響力だと思ひまして、私のところにもいろいろな意見が来るわけでありまして、キャンパス化構想を練られた時には、ご自身だけでお考えになったということで、情報も少なく、あのようなものが出てしまったということがよく理解ができました。

それから1ヵ月後にこういうことですので、町長さんがよくキャンパス化構想について、またご自身で練られたのだろうと推察されます。ただ、あまりにも反響が大きくて、いろいろな問題が起こっていることも事実であります。

先ほどおっしゃられたとおり、川島小学校の存廃問題とキャンパス化構想は、切り離して考えるというご意見、お考えをお聞きしましたが、あり方検討委員会の提言書を教育委員会も町長さんも尊重するというので同じですので、あれを尊重してやっていくことになると、キャンパス化構想かどうかは分かりませんが、川島小

の存廃問題の結論の後は、やはり全町の小学校、中学校まで、そういったことを考えていかなければいけない時が、近い将来、目に見えているということは言えると思います。

ですので、町長さんのキャンパス化構想もまんざらではなくて、いろいろな内容を教育委員会でも1ヶ月間に様々な視点から教育長中心にご意見いただいて、精査をしてまいりました。はっきり言いますと、ほぼほぼ使えるものはありません。インフラの問題、予算の問題、構想の問題、いろいろなハードな問題もちろんですけど、ソフトの問題です。町長さんが触れられた、いじめですとか、不登校、いろいろな問題を、あれで解決できるとは、私は一切思っておりません。

今後、そういった全町を上げたあり方ものになっていくと思うのですが、今回のキャンパス化をベースにものを考えていくことは不可能だと思っております。先ほど、垣内委員からもありましたけれど、4月とは言わずに、ぜひこの場でこのキャンパス化構想を全面撤回していただきたいと思います。

<武居町長>

最後のお話にあった、この場で全面撤回を、というご発言でございます。そういった部分も含めて、しばらくお時間をいただきたいと思います。お願いします。

<萩原教育委員>

町長さんの先ほどのお言葉にもあったのですが、私は教育委員になって、まだ2年目ですので、こういった大きなことがどのような段取りで進んでいくのかということを理解はしておりませんので、今回のように事前の相談もなく、発表されるということが当たり前なことなのか、そうではないかということが分からなかったのですが、当たり前のことではないということが周りの反響を見て分かったので、お詫びをしますということをお願いしたことは、理解しました。

キャンパス化の内容に入る前に、やはり3年間チャレンジの結論を言わないまま、このキャンパス化ということを出されたことで、何を考えれば良いのか、どこに行き滞っているのかが分からなくて、保護者の皆さんの混乱は相当なもので、川島小学校の問題に、私たちの学校まで巻き込まれたというような変な印象まで与えてしまっているので、キャンパス化構想の中に素晴らしいお考えもあるのかもしれないのですが、正直なところ、そこにまで考えが及ばないです。

あと、キャンパス化構想の内容の方に入っていきますと、内容についても新聞で初めて知ったという保護者が多いのですが、新聞を取っていない方も多くて、実際にまだ、こんなことが町で起きているということを知らない保護者もいます。今、SNS等が発達していますので、そういったもので目に触れる機会が大変多くて、それで混乱しているお母さんたちも、私の周りにはたくさんいます。いろいろなご意見があって、いろいろなものを見聞きして、自分のことを判断すれば良いと思うのですが、かなり過激な発言を目に触れる機会も多くて、そこも非常に混乱を招いていると思います。

内容について、細かいことがいろいろあり過ぎて見切れないのですが、前回出された構想の資料には、メリットしか書かれていないので、普通このようなことは、メリットだけを考えて夢のように進めていくのではなくて、デメリットも全て挙げていただいた上で検討していくことが普通なのかなというのが、私の感覚です。お母さん方のご意見の中にもそういったご意見がたくさんあります。やってみればなんとかなるかもしれない、やってみたら面白いかもしれないという感覚ではなくて、楽観的な考え方も時には必要かと思っておりますけれど、子どものことですので、保護者の一つ

一つの不安を取り除いて、納得できるような発表の仕方をしていただきたかったという思いです。

教育現場の先生方の声を、先ほど教育長さんがおっしゃっておいりましたけれど、担任の先生と子どもとの信頼関係とか、そういったことが全くキャンパス化構想の中になかったですし、学童クラブのあり方ですとか、学童と学校は、働いている親にとってはセットですので、学童はどうなるのかというご意見もたくさんありました。あと、支援学級を利用している親御さんからは、支援学級のことはどこにも書いてないけれど、どうなっているのかというお問い合わせもありました。キャンパス化構想に織り込まれているコンセプトが、いじめだったり不登校だったり、あらゆるものを詰め込み過ぎているせいで、どこに焦点を当てて、私たち保護者は考えて良いのかということも正直、未だに分かっていないです。

こうした混乱が長く続くことは良いことではないと思うので、関さんも垣内さんもおっしゃっていたように、一度は撤回という形を取っていただいて、その上で協議できる内容については私たちと一緒に考えていけたら良いのではないかと考えております。

<武居町長>

撤回というご発言もありましたけれど、先ほどと同じように少しお時間をいただきたいと思います。

今のお話の中にありましたように、いろいろなことを詰め込み過ぎたという点も反省ばかりであります。3年間のチャレンジの総括、これは前回の会議で根橋さんの方からも指摘されたことであります。そこがしっかりやれていなかったわけですから、今日この場を借りて、3年間のまとめをさせていただきました。

ただ、私を感じたことを言う以前に、先ほど話をした、川島地区内にある連絡会議で、本当に頑張っていた方が30名近くおりますので、本来でしたら、その皆さんに対して、3年間の総括をやっておけば良かったのかなと思うのですが、コロナの時代に入ってしまった、大勢の皆さんが集まる会議自体ができなくなってしまって、ちょっと悔しい思いもありますし、申し訳なく思っております。

あと、私案も良いことばかり書いてあるということで、本当にそうかもしれません。ある商品売るにしても、やはり良い面だけを共通するのではなくて、デメリットも一旦は信頼性も固まりますので、そういった点でも配慮が欠けていたかなと思っております。

あと、その他、いろいろな点でご指摘いただきました。一つ一つについて、私なりの対応、考えをまとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。ありがとうございました。

## 5. 総括

### (1) 町長

本日は、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。

教育委員の皆様のお話をお聞きし、今回の私案について、かなり無理があった内容であったことを認識しました。これまでの考えについても、大きく見直さなければならぬ部分もあるので、とも感じてはいますが、少しお時間をいただき整理した上で、私の考えをあらためて皆様にお伝えすることとしたいと思います。

先ほども触れさせていただきましたが、誰一人取り残さない教育の実践が、私の何よりの願ひです。現在も、各校の先生方の懸命なご努力により、素晴らしい子どもたちが育っているところではあります、その一方で悩みを抱え、苦しんでいる子ども

私たちも少なからずいる現状もありますので、大人自らが当事者意識をもって、そのことについて問い直していかなければならないと考えています。

このことは、とても複雑で大きな難問だと思いますが、辰野町の将来を担う子どもたちの学びと育ちと未来のため、教育委員会の皆様と一緒に考えて、少しでも良い方向を見出してまいりたいと思いますので、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

また、冒頭のあいさつで申し上げましたが、今回のことで、保護者の皆さん、先生方に大変な不安と心配を与えてしまったことについてもあらためてお詫びしたいと思えます。

今後は、これまで以上に教育委員会と連携を密にし、冷静な対応を心掛けていくつもりです。

本日は、ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございました。

## (2) 教育長

本日は、武居町長、それから教育委員の皆さん、大変ありがとうございました。

今日も、町内のそれぞれの学校では児童、生徒の笑顔と元気な歓声が校舎内に響き渡っていたことと思います。今日一日、児童、生徒たちはたくさんの友達と関わり、お互いに息遣いを感じながら生活をし、先生の指導の下でたくましく学んだことと思います。笑顔が溢れ、明日も登校したくなる学校、明日も友達と学びたくなる学校づくり、これは我々大人に課せられた責任でございます。

今日の総合教育会議において、あらためて町長と教育委員会とが町の教育課題について、お互いに立場を尊重して協議することができたこと、大変ありがたく思っております。

人口減少、そして少子化がますます進んでいく中で、学校現場も大変厳しい中でございます。だからこそ、町長と共に協議をし、辰野町のより良い教育行政の方向を上げてまいりたいと考えておりますので、これからもよろしく願いいたします。

本日は、大変ありがとうございました。

## 6. 閉会のことば

<加藤総務課長>

以上をもちまして、令和2年度第3回辰野町総合教育会議を閉じさせていただきます。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。